

優秀賞

私が目指す像

広島県 横路中学校 二年
岸川 芽衣

「大変じゃろう、手伝うよ。」

そのひとことで私は、かっこいいな、こういう人になりたいと温かい気持ちになりました。

そのように思ったきっかけとなるできごとは、期末試験の日に起こりました。私は家庭科係なので、試験が終わったらノートやファイルをクラス全員分、被服室へ持っていかなければなりませんでした。

その日の試験が終わり、みんなが教卓へ提出物を出し始めました。どんどん積み重なって、高くなっていくノートやファイルはもう、すぐにでもなだれが起きそうな状態です。しかしそれを私が、必死に受け止め支えたので、なんとかなだれが起きずにすみしました。

そのときは、提出物の山がくずれず、大変なことにはならなかったのですが、ホッと一息ついていました。しかし、そんなことを思っていたのも一瞬だけでした。クラスの家庭科係は、私一人だけです。ということは、私が一人で、この大量に積み重なった提出物を持っていかなければなりません。

私は、(周りにいる誰かに手伝ってもらおうかな)と思いました。もうほとんどの人が帰っていて、残っている人は、ほかの友達がいっしょに帰るのを待っているような状態でした。

そのときの私はもう一つ、あることに気づいていませんでした。それは、その提出物を出席番号順に並びかえなければならないことです。それに気づいたとき、忘れていた自分が悪かったのですが、絶望したような気持ちになりました。その後、しかたないなと思いながら、一人で黙々と作業していると、

「家庭科係、一人なん？ 大変じゃろう、手伝うよ。」

と、同じクラスの二人の子が声をかけてくれて、並びかえるのを手伝ってくれました。そのおかげで、ずいぶん早く、その作業を終えることができました。

廊下には、その二人の友達が待っていたし、ここまでで十分助けてもらって感謝しているので、「ありがとう」とお礼を言い、ここまでで大丈夫だと伝えました。すると、

「こんなたくさんの量、一人で持っていくの大変よ。いっしょに持っていく。」

と言ってきて、廊下で待っていた友達も「大丈夫よ。」と声をかけてくれたのです。普通ならば、試験後で疲れていて、早く帰りたいはずですが、だから、三人には本当に感謝していて、ありがとうの言葉しかありませんでした。

このことから、私もこういう人になりたい、誰かが困っているときこそ力になれる人でありたい、と思いました。そして、「親切」とは何でもやってあげることではなく、周りをよく見て行動できる人なのだと学びました。